

地区とのタウンミーティング 議事概要

日 時	令和7年11月14日（金）午後7時00分～午後8時00分
地 区	寺地区
場 所	寺会館
参加人数	12人

テーマ1「寺作業所跡地の防災公園について」

主 旨（区長）

- 寺作業所跡地について、来年度の着工を見据えて早期に対応してほしいと考えており、進捗状況や計画を教えてください。

市 長

- 工事は基本設計、詳細設計、工事という流れで進み、現在は基本設計が完了し、詳細設計の入札が間もなく開始される場所である。
- 防災公園整備は令和8年度の完了を目指しているが、令和9年度となる可能性もある。
- これまでの経緯として、令和元年の基本設計により、アーチェリー場やテニスコートの整備を検討していたが、事業費が約10億円となり、市の財政規模では実施が困難であった。
- 事業の再精査により事業費が約15億円となり、多額な費用を投じてアーチェリー場やテニスコートを整備することは寺住民の利益に直結しないと判断し、これらは別地で整備を検討していくこととした。
- 寺地区には、新たな事業案として緊急防災・減災事業債（以下、緊防債）を活用した、防災公園の整備について説明させていただき、事業予算の見直しにより事業費は8億円、緊防債の活用により市は3割負担となった。次年度の事業実施に向けて、さらなる精査をし、費用を縮小していきたいと考えている。

意 見

- 市内に大きなドッグランが欲しいという意見が多く、防災公園でドッグランを整備することは可能か。
→ [市長] 防災公園を整備する際に活用する緊防債では、東屋・ベンチ・駐車場等は対象となるが、ドッグランは対象とならないため、公園整備後の用途は、住民と相談しながら検討したい。
- 災害が起こった際、防災公園は災害廃棄物の一時的な仮置き場になるのではないかと懸念している。
→ [市長] この防災公園は災害廃棄物の仮置き場を主な目的としたものではない。また、人家に近い場合は住民の理解も必要のため、地域と相談をしながら進めていきたい。
- 工事の際は、寺会館の入口付近から工事車両が入ると聞いているが、どのようなものか。
→ [副市長] 寺作業所前の道路幅員が狭く、左折が難しいため、寺会館の北側フェンスと植栽を撤去させていただきたいと考えている。

テーマ2「おりひめバスの河内磐船駅の乗り継ぎについて」

主旨（区長）

- おりひめバスの利用にあたり、「とんど場地蔵」前にバス停を増設してほしい、寺会館から河内磐船駅まで運賃200円は高い、交野市駅まで延伸してほしい等、住民から要望が出ているため、市の考えを教えてください。

市長

- ゆうゆうバスは無料であったが、おりひめバスは運賃200円であり、その点は市としても重く受け止めている。今年度は外出支援制度で4,600円の運賃補助をしているが、次年度は6,000円に増額を予定している。
- また、ワンボックスカーの車両を、10人乗りから14人乗りに変更を予定している。また、来年度は河内磐船駅で乗り換えをなくし、交野警察署を経由して、交野市役所まで回るルートに変更予定である。今後、交野市駅東側（市役所側）で開発の予定があり、その際に歩道整備をしてバス停を設置し、最終的に交野市駅まで延伸したいと考えている。
- 来年度は働いている人の勤務・通勤時間も考慮し、運行時間帯の延長も検討している。市役所までの延伸や運行時間の拡大により、乗降者の増加を見込んでいる。
- おりひめバスは年間総事業費で2億円、売上が5千万円、国補助が1千万円であり、事業単体では赤字である。しかし、市はさまざまな財政収入や事業費の見直しにより財源を確保しており、おりひめバス運行や給食費無償化などに取り組んでいる。バス利用者が増加しなければ運行継続は厳しいと考えている。可能な範囲ではあるが、市民の皆様がより利用しやすいバス運行ができるよう改善を図っていききたいと考えている。

意見

- 河内磐船駅で乗り継ぎをせず、交野市役所まで直行で乗車できるのか。
→ [市長] 来年度は、東部・中部ルートを一本化する方向で調整している。また、1時間1本の運行は維持しながら、バス停の追加も協議する。バス停の設置場所はお伝えできないが、最終的には交野市駅までの延伸を考えている。
- おりひめバスが満席で乗車できなかったことがある。
→ [市長] 14人乗りのワゴン車でも乗れない場合は、20人乗りマイクロバス導入を検討する。
- 民間企業向けにバスの広告収入をしないのか。
→ [市長] 市の公用車の広告やネーミングライツ、クラウドファンディングの広告収入については、苦戦をしており、成果が上がりにくい状況である。また、現在は、おりひめバス導入初期段階であり、延伸やバス停の追加などを優先し、バスの運行に一定の目途がついてから、広告収入の見直しを考える。

テーマ3「寺、向井田まちづくりについて」

主旨（区長）

- 寺・向井田の地権者の意見は、市街化区域への編入と開発を希望する方向でまとまっていたが、2年

前に開発地を広くするために青山・神宮寺と同時に開発を進める必要が出てきたため、寺・向井田での開発が遅れている。青山や神宮寺の開発や新駅の進捗状況を聞きたい。

市長

- 一般的にはまちづくりに約5年、地権者の状況によっては更に1～3年ほど伸びることもある。寺・向井田の組織はまちづくりに賛成しているが、まちづくりの手法を巡って2つの意見に分かれているため、この状況でゼネコン（事業者）がサポートできるかという課題がある。また、道路の幅員の課題もあり、特定のエリアだけの地区計画を認めることはできない。星田北・星田駅北エリアのように一定規模の面積でなければ、まちづくりの規模としては小さいと考える。
- 地権者が寺・向井田と青山・神宮寺の両エリアにまたがっており、青山・神宮寺でまちづくりの意向を確認しているところである。
- 今回、寺・向井田地域は市街化編入を伴うが、保留フレームにのせることで、地区計画や区画整理の実施時にいつでも市街化編入をすることが可能となる。市街化編入された時点で、土地の価値が上がるが、農地であれば4割から5割くらいの土地を減歩してもらうことになる。トータルの価値は、市街化調整区域より高くなる。
- 今回のまちづくりは新駅整備と合わせて進めることを考えている。駅とともに整備する施設は調整中である。
- 市の調査では、交野高校付近が駅の整備に適しており、整備費も比較的抑えられるとの見解である。
- 駅の開発地から半径500m以内は住宅開発が可能で、周辺環境に配慮しながら、良好なまちづくりを行いたいと考えている。
- まちづくりを進めるために、今年度内にパートナー（事業者）を見つけて、事業を進めていきたい。

意見

- 昨年度、まちづくり検討会で方向性が決まり、次のステップとして協議会の立ち上げの話があったが、まだ立ち上がっていない。少しでも前に進めていくべきだと考える。
→ [市長] まちづくりをする中で、核となる施設が決まっていると協議が進めやすく、地権者の理解が高まる。新駅の整備だけでなく、駅の乗降客数がプラスとなるものが必要であることから、招致する施設の目星はつけている。その施設と協定締結ができていないため、公表することはできない。また、市町村で直接、まちづくりをするにも土地区画整理事業をできるノウハウがないため、施設整備のノウハウがあるゼネコンに依頼する必要もある。保留フレームにのっているため、今後、土地区画整理事業の実施が決まり、組合ができればすぐに市街化編入することができる。市としては、開発面積を増やし、核となる施設と新駅の整備をして残った土地に道路・公園・住宅の開発を検討していきたい。
- 住宅開発は駅から500mであるが、他地区の事例で、地域からの要請があればまちづくりができると聞いた。市が考慮していただければ、500m外でも開発はできないのか。
→ [市長] 他地区の事例は、複雑な事情があり適用除外とした。原則、駅から500m以内と決まっている。寺地区では、交野久御山線沿を理由としてまちづくりは可能だが、商業か工業での開発に限定される。商業は誘致が難しく、工業は物流倉庫やデータセンターを交野高校付近に建築するのは住環境的に好ましくないと考える。エリア全体をより良くするには、駅を作ることが住民の利益になると考える。寺地区だけの理解を得るのではなく、開発地域全体で理解されるよう進めていき

いと考える。

そ の 他(意見のみ)

- 今後、交野市は約2万人弱が高齢者になると予想されているが、高齢者対策をどうするのか。また、少子化を含む市のビジョンはどう考えているのか教えていただきたい。
- 交野は自然の魅力が大きいため、それを生かして多くの人々が来訪してもらおう工夫をするべきだと考える。現状として、けもの道や梯子を上るなど道が悪く、駐車場が山頂付近にしかない状況である。新駅を設置するのであれば、ハイキングコースを整備する必要があると考える。